

太秋柿、初結実も……

数年前に植えた太秋柿、年1～2回の施肥と枝の剪定程度しか世話ができなかったのですが、4～5本の木に今年ついに実が成りました。春に摘蕾（結



大きくなった太秋柿（8月）

果枝一本につき蕾を一個に）をしておいたので数えると二十数個、秋に食べるのを楽しみにしていました。しかし、8月のある日草刈りに行くと、ゲッ！何故か枝や幹が折れている！それも実の成っていた木がほとんど。どうやら猪に荒らされたようです（現場を見たわけではありません）。やれやれ、せっかく木も大きくなったのに……。それにしても、猪はあんな青い実を食べるのでしょうか？ 不思議です。

ト

ピ

ッ

ク

フ

ピオーネとブルーベリーのジェラート

学生時代の友人で名古屋で広告会社を経営している恒川君が、昨年ジェラートの店「ぼのむどうねーじゅ」を始めました。ファンだった店が閉店することになったので、お店を引き継ぎ名古屋市中区大須で新規オープン。定番から旬のものまで約20～30種類のメニューがありますが、当園のピオーネやブルーベリーを使ったジェラートもラインナップに加わりました（季節限定）。

詳しくはホームページをご覧ください。

www.bonomu.com

電話 052-201-1314

（ギフト全国配送もできます）



左／ブルーベリーシャーベット
右／ブルーベリーみるく

ピオーネの房づくり

ぶどうづくりで、他の果樹栽培との大きな違いは房づくりをしなければならないこと。5月中下旬から7月の袋掛け前まで房づくりに追われますが、これがぶどう作りのもっとも大変なところでもあり、醍醐味だともいわれます。その房づくりを紹介します。写真は同じ房（たぶん）です。

①摘穂

1本の枝から2～3カ所に花穂が育ってきます。その中から1本を選び他は切り取ります。

②花穂整形

種無し処理までに花穂を約3.5cmほどに切込みます。種無し処理の印も残しておき、処理が終われば印も取除きます。



摘穂前の花穂（5月）

種無し処理数日後（6月）



花穂整形後（6月）

摘粒後（7月）



摘粒前（6月）



③④

③摘粒

種無し処理より数日後から始めます。この時期になると、粒がぐんぐん大きくなります。最適な房型、大きさになるように粒数を気にしながら間引きます。

④仕上げ摘粒

一度粒を間引いても、まだまだ粒が大きくなり詰まり過ぎるので再度粒を間引き、形を整えます。これが終われば、美味しく美しいぶどうになりますようにと念じながら袋を掛けて一段落。

今年は房数も増えたためか、仕上げ摘粒の作業がなかなか終わらず焦りましたが、袋掛けした房が今年初めて1万房を越えました。



秋の風物詩のひとつ、自然薯のむかご



紅葉のグラデーションが美しい、晩秋の国道429号線



円城の春を告げる、満開の桃畑



吉 備 高 原

あらき農園